

【基調講演の概要】

≪演 題≫ 『中核企業と地域産業の新陳代謝～コラボレーションによる新事業で変わる地域産業のカタチ～』

≪基調講演者≫ 公益財団法人九州経済調査協会 事業開発部長兼 BIZCOLI 館長 岡野 秀之 氏

≪概 要≫

- 地域の活性化、自立と成長には、雇用ももちろん大事だが質の高い、魅力のある、価値のある仕事を地域にいかにつくることが出来るかということが大事。すなわち、企業の「稼ぐ力（生産性・成長性）」と「価値の創出力（新事業創造）＝イノベーション」が不可欠。ベンチャーやスタートアップも重要だが、圧倒的多数を占める既存経営体の稼ぐ力と価値の創出力の絶え間ない連鎖（新陳代謝）が重要。中でも、地域経済の中心的な役割を担う「中核企業（＝地場中核企業・中堅企業、全国大手企業の中核事業所）」の盛衰やイノベーションのあり方が地域経済のパフォーマンスの鍵を握っているのではないかと。
- 産業には、「基盤産業」と「非基盤産業」とがあるが、域外の市場をターゲットにしている基盤産業の方に力を入れることで地域経済の活性化に繋がっていくのではないかと。また基盤産業の「雇用力」と「稼ぐ力」は、必ずしも連動しないが、競争力のある地域になるには、「稼ぐ力」のある産業の多様性や強さが非常に大事。
- 既存地域の中核企業（地場の中堅企業を含む）が新しい産業をどんどん生み出していくという中で、企業同士の繋がり（資本関係、取引関係、人材交流）が、産業の新陳代謝に大きく寄与している。大きな会社が立地した時に、周りで様々な企業が取引を始め、その取引を通じて大手の色々なニーズに対応しながら新しい技術を導入したり、人材のレベルを上げていったりしつつ、力を蓄えて自社のオリジナルな事業を展開出来たところが、地域の新しい中核企業として育っているのが実態。すなわち、中核企業の立地により地域に新産業が勃興する、中核企業の事業拡大により協力企業が増加する、中核企業の事業再編により協力企業が減少するなど、事業生態系（エコシステム）は、中核企業の事業軸の変化とともに変態する。地域で産業が重層化しながら変化することで、新しい企業が生まれ、そして中核企業が育成されるということ。
- 地域に中核企業がない場合はどうするか。例えば東京の会社に中核企業として地域に入り込んで設備投資をしてもらいながら、地元の人と一緒にチームを組んで事業を展開するというのもあって然るべき。地域に足りないものを埋めていくような組み合わせが必要ではないかと。
- 地域の中核企業は、事業規模が大きくなると事業の多角化を進めており、基本は、自分たちの持っているリソースから生産性が高い領域に展開している。
- 成長して売り上げを伸ばしている会社（牽引型中核企業）は新事業を起こしている。では、新事業はどのようにして起こしていくか。これは新事業を企画・立案する機能を持っているかどうか



【岡野氏による基調講演】

かが鍵になっている。組織的に新事業をきちんとやろうという意思があり、かつそういった機能を持っているかどうかの大事。

- 新事業の事業領域としては、本業とのシナジーや連続性がかなり重視されており、次の時代の事業の中核になるものを創っていきたいという想いが強い。事業をどんどん変えていかないと、会社として生き残れないということがしっかり認識されている。
- 新事業推進のキーマンは経営者、そして企画立案、新事業を担当する部署。特に経営者の意志とリーダーシップが大事。
- 新事業を実施する上で、更に重要なことは、自社のリソースだけでは足りない部分を「中途採用人材の活用」や「他の会社との協業」で補うこと。それをスピーディーに展開しなければいけない。また、域外から持ってくる、外で活躍している人にもう一回地域に戻って来てもらうということも大事。

【まとめ】

- 地域の活性化とは、地域の中核企業が、経営者の強い意志とリーダーシップのもと、次の時代の中核となる新事業を創造していくことを如何に考えられるかが鍵。そこに明確な目標と新事業を企画立案する機能があり、そして外部資源をいかに有効に活用していくことが出来るかが大事。
- 中核企業が事業を通じてパートナー企業と共に成長できる協業（共創）をなし、パートナー企業が新たな中核企業となることで、地域に如何に新しい事業生態系を生み出すことが出来るかということが重要。そのパートナー企業として、地域の中小企業やベンチャー企業は重要なステークホルダーである。



【基調講演の様様】